

アメリカ穀物協会は、2016年度トウモロコシ生産ビデオシリーズのうち、作付決定と進捗状況に焦点をあてた1作目と2作目を発表しました。

アメリカ穀物協会（USGC）は、2016年米国トウモロコシ生育期の詳細をビデオシリーズで時系列的に紹介していますが、その1作目と2作目を現在オンラインで公開しています。これらのビデオでは、アーカンソー州やミズーリ州、サウスダコタ州、ワシントン州の農場の作付前に行われる決定や作付作業の進捗状況を主に紹介しています。

このビデオはオンライン <http://tinyurl.com/PlantDec2016> と <http://tinyurl.com/cornplant16> で見ることができます。

米国のほとんどの生産者は次の年の農作業についての決定を、秋にすでに行なっています。

ウィスコンシン州の生産者、ケイシー・ケラハー氏は「秋に作付についての決定をして、肥料を撒く準備もします」と述べています。

また、米国の生産者は秋に畑を耕して種子の購入を済ませることもあります。作付時期が近づくと、生産者は機械の整備を始めます。

「毎年、年が変わる前にトウモロコシの播種機を出してきてベアリングや機械部品をすべて点検します」と言うのは、サウスダコタ州の生産者であるライアン・ワグナー氏です。「また、近頃のトウモロコシ播種機には電子部品がたくさん装備されているので、そのメンテナンスも必要です。そのため、毎年我々は制御装置すべてが思うように稼働するか確認しています。この作業には毎年2、3週間ほどかけています」

今年米国では、機械の整備を終えた後、多くのトウモロコシ農家が理想的な天候だった4月中旬に作付を開始しました。トウモロコシをタイミングよく作付するためにヘルパーを追加で雇い入れる生産者もたくさんいました。

「作付のために十分すぎるほどの準備をします。なぜなら、短い時間枠の中で広大な耕地に播種できるようにしたいからです」アーカンソー州の生産者であるトミー・ヤング氏はこう述べています。

作付が幸先の良いスタートを切っても、その後の天候が収量を定める重要な要因であることに変わりはありません。

「雨がやや少ないので少し心配しています」とミズーリ州の生産者、ゲリー・ポーター氏。「しかし、十分早く作付したので、トウモロコシは乾期が来る前に受粉すると思う」とのことです。

6月に発表された米国農務省世界農業需給予測（WASDE）報告は、今年のトウモロコシ総収穫量を3億6,580万トン（144億ブッシェル）と予測しています。去年から増加していますが、2016/2017米国トウモロコシの収量は、これからの生育タイミングと天候にかかっています。

このビデオシリーズの次回のビデオは夏の終わりごろに公開される予定です。ビデオで取り上げた生産者を再度訪問して、作物の成長状況を確認していきます。■

U.S. Grains Council
Email: grains@grains.org
www.grains.org

 @usgc

 /usgrainscouncil

 /usgrainscouncil

U.S. Headquarters
20 F Street NW
Suite 600
Washington, D.C. 20001
207.789.0789 TEL
202.898.0522 FAX

アメリカ穀物協会 日本事務所

〒105-0001
東京都港区虎ノ門1-2-20
第3虎の門電気ビル11階
TEL: 03-6206-1041
FAX: 03-6205-4960
EMAIL: grainsjp@gol.com

Developing
Markets.

Enabling
Trade.

Improving
Lives.